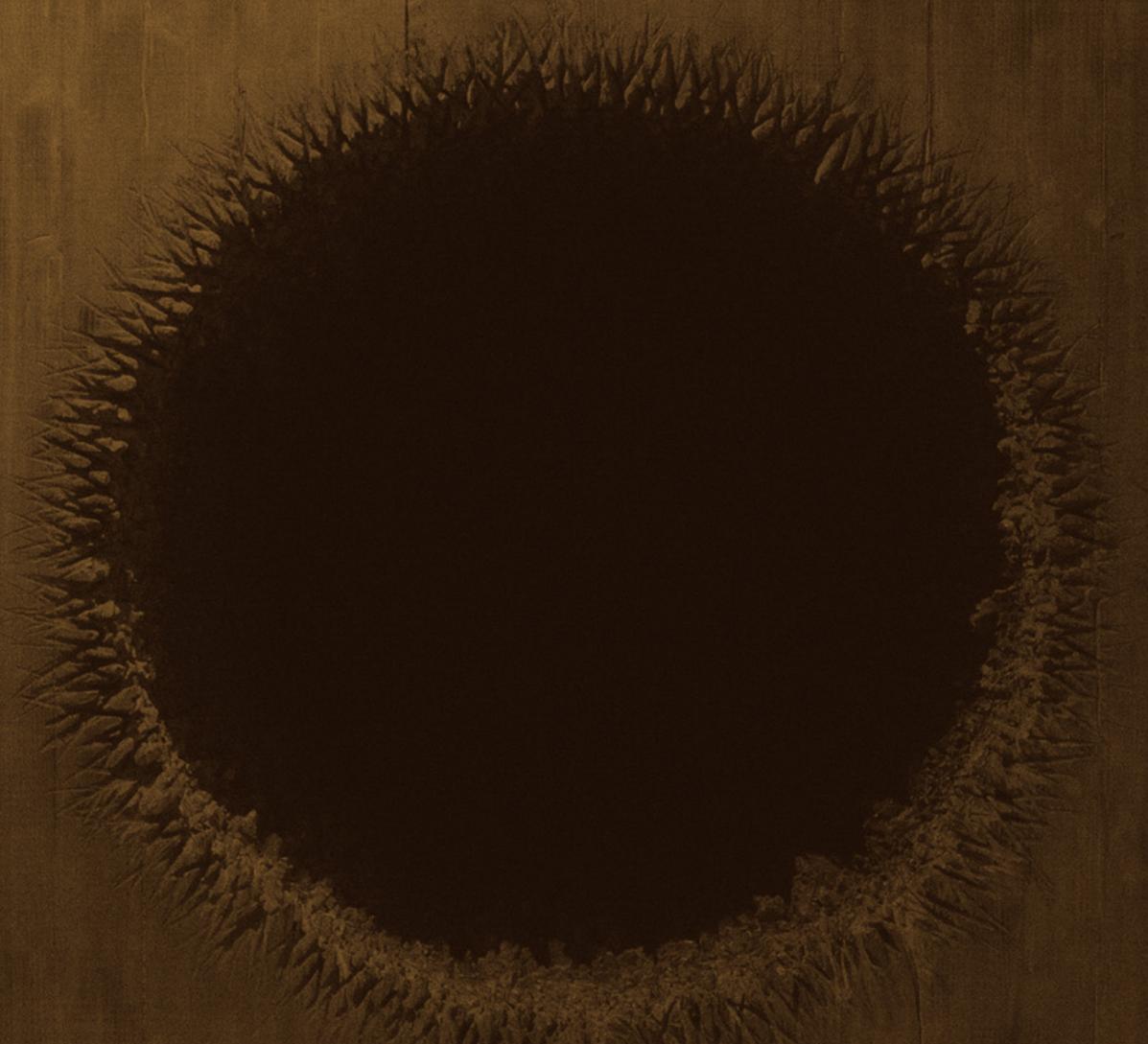


# SHIGEO TOYA

## 戸谷成雄 — 現れる彫刻

# SCULPTURE TO EMERGE

Shigeo Toya's works, created through his consideration of the roots of sculpture, invite us to think deeply about the universe that sculpture creates. Sculptures' surfaces, in which something seems to be wriggling in lower layers, present the boundaries between two territories, what can and cannot be seen, what appears and does not appear. This exhibition, which uses the entire gallery space, is centered on about twenty large-scale works in exploring the structures of sculpture and examining its sources in Toya's thinking.



2017.10.16 mon — 11.11 sat

MAU M&L

武蔵野美術大学美術館 展示室2・3、アトリウム1

〔開館時間〕 10:00-18:00 (土曜日、特別開館日は 17:00 閉館) 〔休館〕 日曜日、祝日、10月30日(月)\*10月29日(日)は特別開館 〔入館料〕 無料

〔主催〕 武蔵野美術大学 美術館・図書館 〔協力〕 ケンジタキギャラリー、シュウゴアーツ、武蔵野美術大学 彫刻学科研究室

Gallery 2, 3 & Atrium1, Musashino Art University Museum 〔Open Hours〕 10:00-18:00 (Saturdays & Special open days 10:00-17:00) Closed on Sundays, Official holidays and 30th Oct. \*Special open day: 29th Oct. Admission Free 〔Organization〕 Musashino Art University Museum & Library 〔Cooperation〕 KENJI TAKI GALLERY, ShugoArts, Musashino Art University Sculpture Laboratory

彫刻家・戸谷成雄（とやしげお／1947年生まれ）は、「ポスト・ミニマリズム」や「もの派」といった現代美術の流れのなかで旧来の制度として解体された彫刻の再構築を試み、彫刻の本質とその可能性を提示してきました。木材からチェーンソーによって彫り込まれた無数の髪が織りなす複雑で重層的な木彫作品は、1980年代から「森」シリーズ、1990年代から「境界」からシリーズ、2000年前後から「ミニマルバロック」シリーズなどを展開し、日本の現代彫刻を牽引する存在として国内外から高く評価されています。『戸谷成雄の作品は、見えるものと見えないもの、形のあるものと形のないもの、などといった二つの領域のせめぎ合いのなかから、今まさに立ち現れてくる発現の瞬間、その存在を保持するものとして「彫刻」を成立させます。本展では、戸谷成雄の彫刻をこのようなせめぎ合いのなかにあるものと捉えて、「現れる彫刻」をテーマに近年を代表する緊張感ある大型作品を中心に約20点を展示します。』戸谷に強い影響を与えた思想家の一人である吉本隆明は、『高村光太郎』に所載された「〈彫刻〉のわからなさ」のなかで、「像をつくることは、世界をつくることになる」と述べています。そして戸谷にとって彫刻とは、まさに世界の存在を、「現れる」というダイナミックな様相のもとに問うものであったと言えます。

The sculptor Shigeo Toya (b. 1947) attempted to reconstruct sculpture, which had been deconstructed by the Post-Minimalist and Mono-ha trends in contemporary art, presenting its essential character and potential. During the 1970s, he produced a series of conceptual works in which he attempted to redefine the concept of sculpture. Then, starting in 1984, he used a chainsaw to produce the wooden sculptures in the Woods series. These works were followed, starting in 1994, by the From Borders series, and since about 2000 by the minimalbaroque series. He is highly regarded as a powerful presence in contemporary Japanese sculpture. 『Toya's works attempt to maintain its presence as "sculpture" in the moment, right now, in which it emerges, through conflict in two domains: that which is visible and invisible and that which has form or is formless. The focus of this exhibition is twenty large works by Shigeo Toya with an air of tension, works that exemplify these conflicts and embody our theme: "Sculpture to Emerge."』 One of the thinkers who strongly influenced Toya was Takaaki Yoshimoto. In "The Impossibility of Understanding Sculpture" in his book *Takamura Kotaro*, he writes that creating images becomes creating worlds. To Toya, then, sculpture questions, based on the dynamic aspect of emergence, the existence of worlds.

展示では、戸谷彫刻の原点となり今日まで通底する問題を内在する初個展作《POMPEII・・・79 (Part 1)》(1974年)を起点に、「表面」や「境界」といった戸谷が探求してきた問題と「視線」の問題が結びついた構造を示す《見られる扉II》(1994年)や《境界》からV》(1997-98年)など、展示室全体を使い彫刻概念を装置化した大型作品を中心に展示します。さらに彫刻の成立と「影」の問題がからまる《射影体》(2004年)、見えない領域への意識がより先鋭化された《境界》からVI》(1998年)、《重層体I》(2010年)、《洞穴体V》(2011年)など、「現れる彫刻」をテーマに存在感ある作品を展開します。『戸谷成雄が作品のなかで思考してきた彫刻という存在、その根源的な問いを作品の構造のなかに読み解くことを試み、彫刻の発現とその新たな可能性を探る展覧会となります。』



1. Viewing Doors II, 1994



2. POMPEII・・・79 (part 1), 1974/1987



4. Projection Body, 2004



3. From Borders V, 1997-98



5. Cave V, 2011

1. 《見られる扉II》h370×w1100×d31cm/木、灰、アクリル塗料、金網網、漆喰、レンズ、鏡/撮影：成田弘 於愛知県美術館 2. 《POMPEII・・・79 (part 1)》h45×w45×d170cm (×4)、h15×w60×d60cm/コンクリート/撮影：山本糾 3. 《境界》からV》h315×w538×d2060cm/木、灰、アクリル塗料/撮影：成田弘 於ケンジタキギャラリー 4. 《射影体》h197×w67×d310cm/木、灰、アクリル塗料/撮影：山本糾 於ヴァンジ彫刻庭園美術館 5. 《洞穴体V》h220×w220×d220cm/木、灰、アクリル塗料/撮影：武藤滋生 於シュウゴアーツ 表：《境界》からV》部分

【会期】 2017年10月16日(月)——11月11日(土) 【会場】 武蔵野美術大学美術館 展示室2・3、アトリウム1

【時間】 10:00-18:00 \*土曜日、特別開館日は17:00閉館 【入場】 無料 【休館】 日曜日、祝日、10月30日(月)\*10月29日(日)は特別開館

【監修】 田中正之(武蔵野美術大学 造形文化・美学美術史教授) 【主催】 武蔵野美術大学 美術館・図書館 【協力】 ケンジタキギャラリー、シュウゴアーツ、武蔵野美術大学 彫刻学科研究室

#### 【関連イベント】

シンポジウム「彫刻再考：戸谷成雄をめぐる」 2017年11月4日(土)14:00-16:30(予定)

戸谷成雄が提示してきた「彫刻」とは何だったのか。

もの派以降戸谷が再構築してきた彫刻の今日的な意味を改めて考え直します。

出演：北澤憲昭(美術評論家/武蔵野美術大学客員教授)、坪戸雅彦(愛知県美術館 企画業務課長)、鈴木勝雄(東京国立近代美術館 主任研究員)、田中正之(武蔵野美術大学 造形文化・美学美術史教授)

「作家によるギャラリートーク」 2017年10月21日(土)16:30-17:30(予定)

出演：戸谷成雄(武蔵野美術大学 彫刻学科教授)/\*当日は本展のみ18時まで開館延長予定。

#### 【同時開催】

「やきもの 在処(ありか)」 9月4日(月)ー11月11日(土)

「タイポグラフィ教育 2 タイポグラフィデザインの楽しさを探る/田中晋の教育の軌跡」

10月16日(月)ー11月11日(土)

#### 【交通アクセス】

- JR中央線「国分寺」駅北口徒歩3分  
「国分寺駅北入口」バス停より「武蔵野美術大学」行または「小平営業所」行に乗り、「武蔵野美術大学」下車(バス所要時間：約20分)
- JR中央線「国分寺」駅で西武国分寺線「東村山」行に乗り、「鷹の台」駅下車徒歩約18分  
\*お車での来館はご遠慮ください。

#### 【問い合わせ先】

武蔵野美術大学 美術館・図書館  
Musashino Art University Museum & Library  
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
1-736 Ogawa-cho, Kodaira-shi, Tokyo, 187-8505 Japan  
Tel: 042-342-6003  
http://mauml.musabi.ac.jp  
E-mail: m-l@musabi.ac.jp, Twitter: @mau\_m\_j

